

中間評価（表紙）

川越市 歴史的風致維持向上計画（令和3年3月認定）
中間評価（令和3年度～令和12年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的建造物の保存及び活用	3
II 伝統行事における人々の活動継承	4
III 周辺環境の整備	5
IV 歴史的風致の維持向上に資する活動への支援	6
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 観光客数の増加	7
ii 市民によるまちづくり活動の活発化	8
iii 地域経済の活性化	9
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 旧川越織物市場整備事業	10
B 歴史的地区環境整備街路事業（立門前線）	11
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 川越まつりに見る歴史的風致	12
2 物資の集散と商業都市川越の発展にみる歴史的風致	13
3 寺社門前の賑わいに見る歴史的風致	14
■ 庁内体制シート（様式6）	15
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	16
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	17

市町村名	川越市	評価対象年度	R3～R7年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	川越まつりに見る歴史的風致	I , III , IV	
2	物資の集散と商業都市川越の発展にみる歴史的風致	I , III , V	
3	寺社門前の賑わいにみる歴史的風致	I , II	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史的建造物の保存及び活用		
II	伝統行事における人々の活動の継承		
III	周辺環境の整備		
IV	歴史的風致の維持向上に資する活動への支援		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	観光客数の増加		
ii	市民によるまちづくり活動の活発化		
iii	地域経済の活性化		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	旧川越織物市場整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	歴史的地区環境整備街路事業（立門前線）	その他	

市町村名	川越市	評価対象年度	R3～R7年
方針	I 歴史的建造物の保存及び活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】所有者の高齢化や維持管理費への不安から、保存を断念されるものがある。一方で、利活用を希望している場合では、活用主体とのニーズの不一致が課題である。また、市所有のものについては、行政財産特有の理由からうまく活用が進まない事例が多い。

【方針】所有者と活用主体の橋渡しとなる仕組みと、歴史的建造物再生及び利活用マネジメントサイクルを構築し、民間資金を活用した歴史的建造物の利活用促進を図る。市所有のものについては、遅滞なく保存整備事業を実施し、地域に貢献する適切な保存活用を図っていく。

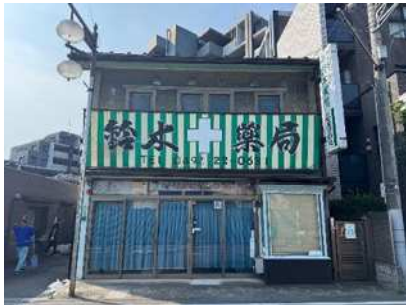
② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的地区環境整備街路事業（立門前線）	立門前線の道路美装化事業	あり	H24～R5
2	旧川越織物市場保存整備事業	文化創造インキュベーション施設として整備	あり	H25～R5
3	景観重要建造物等修理費補助事業	修理に対し32件に補助、0件の新規指定	あり	H27～R12
4	伝統的建造物群保存地区保存整備事業	修理・修景に対し35件に補助、0件の特定	あり	H23～R12
5	歴史的建造物再生・利活用マネジメントサイクル構築	調査・活用案の提案等	あり	R3～R12

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・市所有の歴史的建造物の再生・利活用
市所有の歴史的建造物である「旧川越織物市場」について、令和2年度に復原等工事に着手し、文化財として復原を行うとともに、建物を生かすため、文化創造インキュベーション施設として活用するための整備が令和5年度に完了している。公開するだけの施設ではなく、地域活性化や町の魅力創出及び強化に寄与する施設として活用されている。

・歴史的建造物のマッチング事業
民間が所有する歴史的建造物の保存活用を支援する試みとして、景観重要建造物等の所有者と、活用を希望する民間事業者や金融機関等情報を共有し合い、希望する組み合わせの実現を目指すマッチング事業を行っている。このような事業がきっかけとなり、歴史的建造物の保存活用に向けて前向きに検討する所有者が増えており、飲食業や宿泊施設等に活用される事例が増えてきている。



景観重要建造物（鈴木薬局）活用前 R7



景観重要建造物（鈴木薬局）パン屋として活用開始 R8

④ 自己評価

民間所有の歴史的建造物の修理・修景に対する助成及びマッチング事業により、歴史的建造物の保存及び活用を推進することができた。

また、市所有の大規模な歴史的建造物について、文化創造インキュベーション施設として整備が完了し、歴史的風致の維持向上を図ることができた。

⑤ 今後の対応

- 歴史的建造物の整備に対する助成を行うことで、引き続き歴史的建造物や町並みの保存を図り、歴史的風致の維持向上に取り組む。
- 歴史的建造物に対する、新たな民間資金調達手法を含めたマネジメントサイクルの構築による利活用と流通を推進し、好事例を増やすことで、歴史的建造物の滅失等の防止を図る。

市町村名	川越市	評価対象年度	R3～R7年
方針	Ⅱ 伝統行事における人々の活動の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】高齢化、後継者不在、建物の売却等を背景に、川越まつりを支えている自治会の加入者が減少している。自治会費は、山車の保存や組立て、維持管理にかかる多額の費用の原資であるため、その減収が大きな課題となっている。

【方針】定住人口の増加と地域経済縮小の克服に向けて取組み、伝統行事の活動の担い手を確保するとともに、伝統の継承に寄与する活動に必要な費用の調達に対する支援を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	川越氷川祭の山車行事保存会への補助	山車の修理等に係る後継者育成	あり	H24～R12
2	伝統民俗行事保存会への補助	山車運行に係る後継者育成	あり	H24～R12
3	伝統工法・技術継承への制度整備	匠の技の開催支援等	なし	
4	川越市蔵造り資料館耐震化	職人の技術伝承・育成支援	あり	H25～R9
5				

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・伝統行事・民族行事への支援
 山車（人形・衣装・幕を含む）の修理事業に対して補助を行うことで、山車の維持管理を支援した。また、毎年保存会で行っている、山車行事への理解を深めるための研修会に対しても支援を行った。木遣り会（鳶）の練習等の研修会を支援し、山車運行に係る後継者育成を行った。

・歴史的建造物等に係る技術継承への支援
 川越市蔵造り資料館の耐震化は、土蔵の全解体修理の手法で行われた。この手法は、全国的に稀であるため、修理そのものが様々な職人の技術を向上させた。また、修理の様子をSNS等で積極的に発信したことで、伝統技術に対する市民の認知や理解が促進され、伝統技術の継承に寄与した。

歴史的風致維持向上支援法人である川越蔵の会では、ワークショップや匠の技というイベントを開催することで、職人の伝統技術を市民に幅広く紹介しており、こういった取り組みが後継者育成の一助となっている。

④ 自己評価

多様な助成制度を活用し、伝統行事における活動費用について支援することで、伝統技術の継承や人材育成に寄与することができた。また、市民団体との連携を図ることで、歴史的建造物に係る各種伝統技術が継承されるとともに、市民への啓発をすることができた。

⑤ 今後の対応

・伝統行事等を保存するために、今後も後継者育成事業に対して継続的に支援を行っていく必要がある。

・今後もあらゆる方面から支援を続けていき、伝統技術の継承と後継者育成を続けていくことが重要である。

・引き続き市民への啓発を行うことで、伝統行事への理解と価値認識を高めていく必要がある。



山車行事保存会研修会の様子 R6.2



修理が完了した龍神の山車 R4.3

市町村名	川越市	評価対象年度	R3～R7年
方針	Ⅲ 周辺環境の整備	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】①整備が進まない歴史的街路が多く残っている。②歴史的建造物が立ち並ぶ主要な路線は、幹線道路かつ路線バスの主要路線であるため、車と観光目的の歩行者が混在していることから、慢性的な交通渋滞及び通行人の安全性の確保の対策が必要。

【方針】道路美装化等を促進し、歴史的町並みの魅力を高めつつ、安全性及び回遊性を確保する。また、川越市都市・地域総合交通戦略の施策の実現により、歩行環境の改善と多様な移動手段の確保を進め、交通混雑の解消と安全性の確保を実現する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的地区環境整備街路事業（立門前線）	立門前線の道路美装化事業	あり	H24～R5
2	歴史的地区環境整備街路事業（連雀町新富町通線）	連雀町新富町通線の道路美装化事業	あり	H24～R6
3	オーバーツーリズム対策事業	伝建地区の滞留空間創出に向けた調査及び実証実験	なし	R7
4	りそなコエドテラス	埼玉りそな銀行旧川越支店リノベーション事業	なし	R6
5	氷川の杜	氷川神社整備工事	なし	R5

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・歩行者の回遊性の確保
市の事業として、地元や関係課との調整を行い、歴史的建造物が立ち並ぶ主要道路周辺の道路を美装化した。これにより、観光客の歩行ルートを選択肢が広がり、一部の歩行者が分散されたことで、歩行者の回遊性及び安全性が向上した。また、民間の事業として、りそなコエドテラス及び氷川の杜ができたことで、新たな滞留空間及び歩行ルートが登場し、一部道路空間の混雑の解消に繋がる可能性が見えてきた。

・オーバーツーリズム対策
関係課10課で対策チームを構成し、商店街や地元企業との協議会を開催し、地元の理解や協力を得ながら、各所管事務に関係するオーバーツーリズム対策の取組を行った。現在は、オーバーツーリズム対策について具体的な検討を進めている段階である。まだ、明確な成果として表れていないが、課題解決の可能性が高まった。

連雀町新富町通線 整備前
(H30)

連雀町新富町通線 整備後
(R4)

オーバーツーリズム対策調査中
(R7)

④ 自己評価

庁内関係課及び地元との協力体制を構築したことで、円滑な合意形成が実現できた。また、行政及び民間のそれぞれの強みを生かした事業により、道路の混雑の解消や歩行者の安全性の確保に向けた取組を推進することができた。

⑤ 今後の対応

・引き続き関係課等と連携し、民間企業と情報共有しながら、ハードとソフトの両面から周辺環境の整備を進めていく。

・歩行空間等を対象に人の動きや流れ等の詳細な調査を行い、客観的データに基づいた課題や対策等の抽出を行う。

市町村名	川越市	評価対象年度	R3～R7年
方針	Ⅳ 歴史的風致の維持向上に資する活動への支援	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】世代交代や土地の売却によって、自治会や商店街の会員数が減少し、市民主導による歴史的町並みの保全の維持が困難になっている。地域のつながりが希薄になることで、住まいの作法や商売の作法が継承されない課題がある。

【方針】市民が自主的に、地域コミュニティ内で行うまちづくり活動を継続していくため、川越市都市景観条例に基づく都市景観推進団体の指定制度等を活用し、知見的、資金的な支援を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	伝統的建造物群保存地区保存活動事業への補助事業	川越町並み委員会への補助	あり	H23～R12
2	まちづくり支援事業	都市景観形成基準の運用アドバイス	あり	R3～R12
3	かわごえ都市景観表彰	川越の都市景観に資する好事例を表彰し周知を図る	なし	H2～
4	防災訓練支援	伝統的建造物群保存地区、菓子屋横丁	なし	H27～
5				

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・伝統的建造物群保存地区及びその周辺に整備された防災設備を使用した防災訓練を定期的実施している。平成27年度からは自治会等の主催となったため、地元の意見を聞きながら市は支援を行っている。市民が自主的に防災対策に取り組むことで、住民一人ひとりの防災意識が高まり、初期消火や救助活動等の迅速な対応が可能となる。また、災害時の協力体制を強化することに寄与している。

・都市景観協議会の開催
大規模な建築計画等がある場合、都市景観協議会を開催し、地域住民との事前協議を行っている。事前協議では、建築計画が地域住民と協働で作成した都市景観形成基準に適合しているかどうかの確認を行っているが、専門的な知見から運用における支援を行うことで、地域住民の歴史まちづくりへの継続的な参加を促進している。また、協議会委員が変わるタイミング等に定期的に景観についての勉強会を開いており、協議会では景観についての建設的な意見が少しずつ見られるようになった。

④ 自己評価

多様な支援制度を利用しながら、市民との連携を図ることで、行政だけではなく、市民も共同して景観を保全していくという意識が生まれた。また、景観について具体的に行政と考える機会が増えたことで、景観保全に対する市民意識の高まりが見られた。しかし、連携している市民の多くは高齢者であるため、世代交代が課題である。

⑤ 今後の対応

引き続き支援策の充実を図り、景観についての市民活動を活発化させていきたい。また、若い世代にも活動に参加してもらえるように力を入れていきたい。



伝建地区消火栓操作訓練 R7.8



景観協議会開催時の様子 R7.8



かわごえ都市景観表彰受賞作品 R6

市町村名	川越市	評価対象年度	R3～R7年
効果	i 観光客数の増加		

① 効果の概要
第2期川越市歴史的風致維持向上計画が策定された令和3年から3年間で観光客数が341万人増加

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	第四次川越市総合計画	あり	H28～R7
2	第二次川越市観光振興計画	なし	H28～R7

歴史的建造物の保存及び活用事業が推進されたことで、歴史的町並みが整備され、多くのマスメディアやインターネットメディアで歴史的町並みが紹介された。その結果、多くの外国人観光客が歴史的町並みを見るために川越を訪れた。
また、歴史的建造物の周辺環境が整備されたことで、魅力的な歩行空間が増え、観光客数の増加に繋がった。

③ 効果発現の経緯と成果

・外国人観光客の増加
第二次川越市観光振興計画では、外国人観光客向けの施策を進めている。歴史的町並み等について説明しているホームページやパンフレットを外国語表記にしたり、外国人向けに歴史的町並みの無料英語ウォーキングツアーを実施している。このように、これまで本計画により整備されてきた歴史的町並みの魅力を外国語で発信することで、多くの外国人観光客の来訪に寄与している。

・来訪者の満足度の上昇
第二次川越市観光振興計画では、安心して観光を楽しめる環境を作るための政策の1つとして快適な街歩き空間の創出を掲げている。その中の取組の1つとして、デジタルマップを作成し、多種多様な観光コースを紹介している。本計画でも歴史的建造物が立ち並ぶエリアの周辺環境の整備を方針に掲げて、道路の美装化等を実施しており、歩行者の回遊性が向上している。市の観光統計のアンケート調査では、観光目的の中で最も多いのが町並み散策で、また、立ち寄り観光地点の大多数を占めているのが本計画の重点区域内にある歴史的町並みである。このように、両計画が連携することで、様々な相乗効果を生み出しており、その結果来訪者の満足度が上昇している。

国内観光客数

年度	観光客数
令和4年	550
令和5年	650
令和6年	650

外国人観光客数

年度	観光客数
令和4年	10
令和5年	60
令和6年	60

④ 自己評価
本計画に基づいて歴史的町並みが整備され、また、道路の美装化等により歩行者の回遊性が向上したことで、観光客が大幅に増加した。また、並行して第二次川越市観光振興計画により、外国人観光客対応やその他観光施策を実施したことで、観光客の満足度が上昇している。

⑤ 今後の対応

- 観光客の一ヶ所集中を解消するため、伝統的建造物群保存地区以外の歴史的建造物を活かし、回遊性をさらに高め、観光客を分散させていく必要がある。
- 地域住民にとって快適で暮らしやすい環境を保つため、関係各所とともに課題に取り組んでいく。

市町村名	川越市	評価対象年度	R3～R7年			
効果	ii 市民によるまちづくり活動の活発化					
① 効果の概要						
歴史的風致維持向上地区内での市民によるまちづくり活動が活発化している						
② 関連する取り組み・計画						
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度			
1	川越市景観計画	あり	H26策定			
2	川越市都市景観条例	あり	H26策定			
複数の歴史的建造物を総合的、包括的に取り扱うマネジメントサイクルを構築し、川越市内で様々な活用事例が登場したことで、歴史的建造物の所有者が利活用に積極的になってきている。その結果、年々活用についての相談件数が増えており、所有者によるまちづくりの活性化に繋がっている。						
③ 効果発現の経緯と成果						
・平成27年の火災がきっかけとなり、復興建築の調整の場として、菓子屋横丁委員会が設置された。構成員は、商店会、自治会及び歴史的風致維持向上支援法人である川越蔵の会である。 毎月1度街づくり委員会が開催され、個々の物件への助言、修景相談やガイドライン作りなどが続けられてきた。市はオブザーバーとして参加しており、令和7年には、菓子屋横丁まちづくり協定(案)が完成した。 ・本計画による様々な事業が推進され、町並みが整備されたことで、地域の魅力が向上し、地元の事業者等が自発的に歴史的建造物を活用する事例が増えている。						
						
菓子屋横丁まちづくり協定(案)		菓子屋横丁街づくり委員会開催時の様子				
④ 自己評価						
市が主導して本計画を推進し、補助金等の支援体制を整えたことがきっかけで、伝統的建造物群保存地区以外の地区でも住民主導による歴史まちづくり活動の活性化につながった。						
⑤ 今後の対応						
地域住民が主体で活動する町並み保存活動の取り組みに対して、引き続き助言及び支援を行う。また、活用事例等を具体的に紹介し、若い世代にも興味をもってもらえるように広報活動を行う。						

市町村名	川越市	評価対象年度	R3～R7年
効果	iii 地域経済の活性化		
① 効果の概要			
創業支援施設の増加、地域イベントの増加によるにぎわいの創出、新規店舗出店及び不動産開発の増加			
② 関連する取り組み・計画			
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	第四次川越市総合計画	あり	H28～R7
2	川越市産業振興ビジョン	なし	R4～R7
3	第二次川越市観光振興計画	なし	H28～R7
本計画の事業である旧川越織物市場整備事業では、市指定有形文化財である旧川越織物市場及び旧栄養食配給所について、文化財として復原を行うとともに、創業間もない、新たに事業をはじめるクリエイター等を支援する文化創造インキュベーション施設（コエトコ）として整備した。			
③ 効果発現の経緯と成果			
・コエトコは、新たなクリエイターやスタートアップ等を支援することで、地域の課題解決を目指している。川越市産業振興ビジョンと連携することで、新しい経済活動が生まれる基盤が整いつつある。 ・歴史的風致維持向上計画によって保存された歴史的建造物や景観が、観光振興計画と結びつくことで魅力ある観光地として整備され、多くの観光客の注目を集めることができ、その結果、新規店舗の出店などが増加した。 ・地域住民や企業、市役所など多様なステークホルダー間で協力体制が構築されつつあり、新たな地域イベントが増加している。			
 地元主催イベント （小江戸川越まちかどオートギャラリー） R7  川越+クリエイティブゼミR8  デザインクラフト市R8			
④ 自己評価			
当初計画より遅れていた、旧川越織物市場整備事業が完了したことは立門前界隈の地域活性化に向けた大きな前進である。本計画が起点となって、各計画とうまく連携することで、重点地域で多様な活動が行われ、エリア全体が持続可能な地域経済の発展に向けて進んでいる。			
⑤ 今後の対応			
各計画は相互補完的であり、一つ一つが他方に影響している。地域経済活性化の効果が最大限になるために、川越市全体として一貫した方向性で動くことが必要である。			

市町村名	川越市	評価対象年度	R3～R5年
取り組み	A 旧川越織物市場整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

歴史的風致形成建造物かつ市指定有形文化財である旧川越織物市場及び同敷地内にある旧栄養食配給所について、文化財としての復原を行うとともに、新たに事業をはじめるクリエイターを支援する文化創造インキュベーション施設として活用するための整備を行った。

【取り組みの経過】

- ・令和2年度から旧川越織物市場東棟・西棟ほか整備工事に着手し、令和4年9月に完了。
- ・令和4年度から旧栄養食配給所等整備工事に着手し、令和5年10月に完了。
- ・令和5年12月から外構その他工事に着手し、令和6年3月に完了。
- ・令和6年4月から「川越市文化創造インキュベーション施設（コエトコ）」として開設。





整備前写真
整備中写真
整備後写真

② 自己評価

正確な設計図書を作成し、その後の工事の施工性を向上させるため、また建物の腐敗状況等を正確に把握するため、それぞれの建物は、全ての部材を手作業で取り外した後、部材を補修し、再度組み立てを行うという文化財特有の修理方法「全解体修理」が採用された。

評価については、国土交通省「居心地の良さを測る指標」を参考とした現地観測・評点の設定による評価を実施した。文化創造インキュベーション施設の期待感を図るための指標を11項目設定し、項目ごとに人々の主観と活動を計測した。旧川越織物市場（コエトコ）に立ち寄る人もみられるが、やや住宅地としての印象が強いままである。今後、文化創造インキュベーション施設としての側面と文化財としての側面から保存と活用の両立を図り、運営を行っていく必要がある。

あわせて、市内における本施設の認知度の低さを改善するため、様々な属性をターゲットとした企画を実施し、本施設が開かれた親しみやすい施設として認知されるよう、事業を展開していく。

外部有識者名	北海道大学 越澤明名誉教授
外部評価実施日	令和8年2月5日（木）

③ 有識者コメント

マンション計画に反対する地域の要望を受けて川越市が開発公社により旧織物市場の土地建物を取得したことは英断が第一段階である。第二段階は、市が緊急的に取得した旧織物市場を歴史まちづくり法を適用することで修復活用の整備が実施された。文化財として保存展示、創業支援の賃貸、新築の飲食施設という3つの機能を組み合わせた保存再生（のやり方）は意義がある。なお周囲のマンション化の抑制のために高度地区か景観地区を指定することが望ましい。

（川越）旧織物市場の施設を英語訳すると、（Kawagoe）Old Fabric Market である。国際観光の視点から、旧織物市場を正式名称として、コエトコは愛称に変更する方が適切である。

④ 今後の対応

周囲のマンション化抑制のための対応については、まずは他の自治体の状況等を確認するために情報収集を行いたい。また、国際観光の視点から、施設の英語訳も含め、コエトコを海外からの訪問者に対応するための検討を行いたい。

市町村名	川越市	評価対象年度	R3～R5年
取り組み	B 歴史的地区環境整備街路事業（立門前線）	種別	それ以外

① 取り組み概要

立門前線は、蓮馨寺門前の賑わいを伝える中心的な街路であり、伝統的建造物群保存地区と中心商業地との中間に位置し、川越散策のネットワークを構成する重要な位置にある。このため、歩行者の安全性を考慮しつつ、回遊性を高めるとともに歩いて楽しめる界隈づくりを図るため、道路の美装化を実施した。令和元年度に立門前線西側のみ道路改築（美装化）工事が完了している。令和5年8月に立門前線東側の美装化工事の契約を締結し、令和6年4月に当該工事が完了した。

令和元年度 道路改築（美装化）工事及び下水道工事（西側 延長約70m）、占用物件移設工事
 令和2・3年度 関係各課との情報共有・今後の事業遂行の方向性等にかかる協議実施
 令和4年度 下水道工事
 令和5年度 道路改築（美装化）工事（東側 延長約140m、令和6年4月完了）

【立門前線西側整備】



【立門前線東側整備】



② 自己評価

ワークショップを開催し、地域住民と協議を重ねながらデザインを決定した。その結果、地域特有の風情を掘り起こし、歩行者の交通量が整備前に比べ倍増するなど、賑わいの創出を図ることが出来た。また、国土交通省「居心地の良さを測る指標」を参考とした現地観測・評点の設定による評価を実施した。立門前線の期待感を図るための指標を11項目設定し、項目ごとに人々の主観と活動を計測した。立門前線全体でいえば、様々な属性の人々が来訪し、会話や散策等を楽しんでいる状況である。しかし、東側については、生活動線としての利用が多く、期待感のある賑わいが足りない状況であるが、小さい子供と遊びながら歩いたりする等、のんびり散策するために歩きやすい空間になっている。

外部有識者名	北海道大学 越澤明名誉教授
外部評価実施日	令和8年2月5日（木）

③ 有識者コメント

戦国時代に創建され、関東で有数の浄土宗寺院である蓮馨寺とその門前は川越の都市発展にとって重要なエリアである。その門前の通りが美装化が実施され、しかも沿道に位置する旧織物市場再生と同時に実現したことは相乗効果となっている。歴史的街路の美装化を契機として、沿道の既存建物の外観の手直し、新築建物の景観配慮などにより、情緒と雰囲気のある街並みが醸成されるように、まちづくりルールの充実化が望まれる。

④ 今後の対応

立門前線の美装化事業を契機として、周辺エリアを活性化できるように検討を進めていきたい。また、立門前線固有の町並みが維持、形成されるように引き続き景観誘導を図っていきたい。

市町村名	川越市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	1 川越まつりに見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保全活用 II 伝統行事における人々の活動の継承 IV 歴史的風致の維持向上に資する活動への支援		

① 歴史的風致の概要

川越祭りは、江戸「天下祭」の様式や風流を今に伝える、貴重な都市型祭礼として、370年の時代を超えて守られ、川越独自の特色を加えながら発展しており、国指定重要無形民俗文化財、ユネスコ無形文化遺産に登録されている。

山車の維持管理や祭り囃子の継承、地域の交流等、川越祭りは市民生活の拠り所として今も息づき、歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

・氷川の杜整備事業について

当事業は、旧氷川会館を解体して再建築する等、敷地全体を「氷川の杜」として整備し、地域とともに成長、成熟する社を目指したものである。地域コミュニティーの中心である氷川神社が、氷川の杜として整備されたことにより、地域全体に期待感が生まれている。川越まつりは氷川神社の秋の例大祭であるため、氷川の杜整備事業の波及効果により、川越まつりへの期待感も増し、川越まつりに関わる地域全体の魅力が底上げされている。

・川越まつり会館のリニューアルオープンについて

本計画の重点区域内にある川越まつり会館では、令和5年度に改修工事を行い、祭りの映像を映すスクリーンを3面にして大型化したり、曳（ひ）っかわせの映像が壁に投影される部屋も用意し、まつりに参加したような感覚を味わえる仕掛けが作られている。さらに、6言語に対応できる音声ガイド機器を無料で貸し出し、外国人への対応を強化した。このように祭りの様子を多くの観光客に体験してもらうことで、川越まつりの認知度が向上した。

・初雁公園整備事業

令和4年度に川越城本丸御殿周辺広場及び公園休憩所の整備を行った。広場や休憩所が整備されたことで、本丸御殿周辺を散策できる魅力的な歩行空間が誕生した。その昔、川越氷川祭礼は、川越藩主の上覧が重要な行事であったため、広場や休憩所が整備されたことで、現在の川越まつり自体が持つ伝統が再評価され、地域文化への関心が高まった。

③ 自己評価

行政の事業として、川越祭りの認知度を向上させるような効果を生み出し、民間の事業として、川越祭りに対する期待感を向上させるような効果を生み出すことが出来た。それぞれの事業が相乗効果を発揮し、川越祭りに見る歴史的風致の向上に貢献している。

④ 今後の対応

引き続き、歴史的建造物の保存、活用を進めることで、川越祭りの一部である町並みや雰囲気といった歴史的風致を向上させていきたい。

また、川越祭りの伝統を引き継ぐ担い手や資金不足といった課題があるので、地域全体との協力によって多角的なアプローチによる支援をしていく必要がある。



氷川の杜整備後の様子 R6



川越まつり会館リニューアル R5



川越城本丸御殿周辺広場整備後R4

市町村名	川越市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	2 物資の集散と商業都市川越の発展にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保全活用 II 伝統行事における人々の活動の継承 III 周辺環境の整備 IV 歴史的風致の維持向上に資する活動への支援		

① 歴史的風致の概要

川越は、物資の集散地として、入間川の舟運に始まり、江戸時代からの新河岸川の舟運や、川越街道をはじめとする街道輸送により繁栄を築いた。

かつての米穀・織物という2大産業から業態が変化しつつも、集散地ならではの拠点性は持続され、埼玉県内有数の商業地として発展した。

それぞれの時代を象徴するさまざまな様式の歴史的建造物、現代に至るまで営みつづけられてきた様々な産業、これらが一体となり、川越ならではのまちを魅力づけ、歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

・旧川越織物市場整備事業

物資の集散地川越を象徴する市指定有形文化財の旧川越織物市場については、文化創造インキュベーション施設（コエトコ）として生まれ変わり、新たに事業をはじめめるクリエイターを支援している。クリエイターが地域のイベントと協働する事例も増えており、周辺地域にポジティブな影響をもたらしている。

・立門前線美装化

立門前線は、歴史的地区環境整備を進める中心市街地のまちづくりの一環として、ネットワークの形成や喜多院等の他の拠点との連絡上、大切な位置にある。このように重要な位置にある立門前が美装化されたことにより、周辺地域全体の景観が向上し、観光客が引き寄せられることで、地域の活性化が図られている。

・本計画の重点区域内にある川越一番街は、歴史的建造物の保存活用が進み、歴史的風致の維持が促進されている。世界中から観光客が訪れているため、空き店舗はなく、蔵を利用した宿泊施設等の新たな施設も続々誕生しており、川越の賑わいの中心を担っている。



クリエイターが関わる地域イベント R7

伝統的建造物を活用した飲食店 R7

立門前線周辺エリア（結節地域）
の整備全体図

③ 自己評価

コエトコの誕生及び立門前線の美装化により、周辺地域全体の美観が向上した。これにより、訪れる人々の期待感が高まり、地域の魅力向上につながった。また、インキュベーション施設は、新たな文化活動が展開する舞台となるため、地域の伝統文化と新しい文化が融合し、川越の豊かな文化的風景が生まれる土壌が形成された。

④ 今後の対応

コエトコの誕生と立門前線の美装化により、歴史的風致の向上は図られている。現在は認知度が低い等様々な課題があるため、地域活性化やまちの魅力創出及び強化に寄与する施設として、より積極的に活用されていく必要がある。そのため、地域住民や関係課と連携しながら、具体的な施策を検討していく必要がある。

市町村名	川越市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	3 寺社門前の賑わいにみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保存及び活用 Ⅲ 周辺環境の整備		

① 歴史的風致の概要

川越には、長い歴史を背景とした数多くの社寺が市民生活の文化的シンボルとして存在し、門前の賑わいを今に伝えてきた。

門前界隈は、表通りの余所行きの、ちょっとおしゃれな顔とは異なり、菓子屋横丁や焼だんごの店のような庶民的な顔や、料亭のようなまちの懐の深さを見せるところでもあり、今もなお多くの店が歴史的建造物とともに営まれており、歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

・菓子屋横丁

養寿院門前である菓子屋横丁で新築修景補助事業を活用し、菓子屋横丁町並み委員会の意見を参考にして、外観を菓子屋横丁の町並みに調和したものとなった。また、長年駐車場で町並みの連続性が途切れていた敷地に人気キャラクターを取り扱う店舗がオープンし、多くの観光客が訪れている。新築修景補助事業は活用されていないが、菓子屋横丁町並み委員会で何度も協議がなされ、菓子屋横丁の町並みに調和したものとなった。このように、菓子屋横丁の歴史的風致を向上させる建築物ができたことで、多くの人が訪れ、エリア一体が活性化された。

・立門前線美装化事業

美装化された立門前線は、景観向上だけでなく回遊性向上にも寄与している。立門前通りを通過して、喜多院に向かうルートも設定され、喜多院との連携強化による相乗効果も期待できる。



工事前の様子



完成後の様子 R5



コエトコ前に置かれている
喜多院へのルートMAP

③ 自己評価

地域の歴史的な景観との調和を図ることができ、エリア全体の統一感が保たれ、訪れる人々に魅力的な印象を与えることができている。また、菓子屋横丁町並み委員会で協議が行われていることは、多様な意見を反映しながら最適解を模索するその過程自体が地域コミュニティの連携強化につながっている。

④ 今後の対応

今後も引き続き規制・支援・整備を行うことで、エリア全体の歴史的風致の維持向上を図る。

市町村名	川越市	評価対象年度	R3～R7年
① 庁内組織の体制・変化 歴史的風致の維持向上を進めていくにあたり、事業内容が多岐の分野にわたるため、事業担当部門間の横断的な連絡調整が必須となり、「川越市歴史的風致維持向上推進連絡会議」を設置し、総合的な連携強化を図ることで、円滑かつ効果的な計画の推進に努めた。 連絡会議に検討会議を置き、担当者レベルでの会議とすることで、活発な意見が出やすい雰囲気づくりを行った。 歴史的風致維持向上計画の事業担当部門だけでなく、政策、財政部門の担当者も参画することで、国庫補助等の財源確保の状況や市の政策・財政状況を踏まえた協議を行うことができた。 歴史的風致維持向上計画掲載事業の評価等に伴い、交通量調査を実施するために、検討会議のメンバーに手伝い等を行ってもらう等の協力体制を築いた。			
 川越市歴史的風致維持向上推進連絡会議 事務局 ・都市計画課 ・都市計画課 ・都市計画課 ・教育委員会 ・文化財保護課 連絡調整 担当部門 ・総合政策部 ・政策企画課 ・地域創生課 ・財政部 ・財政課 ・産業観光部 ・産業振興課 ・観光課 ・都市計画部 ・公園整備課 ・建設部 ・道路振興課 ・運輸部 ・教育委員会		 庁内担当者検討会議の状況	
庁内担当者連絡会議の体制		 庁内担当者検討会議メンバーによる交通量調査の状況	
② 庁内の意見・評価 （川越市歴史的風致維持向上推進検討会議での意見・評価） - 大規模な事業が完了し、ルーティーン的な事業と全く動かない事業が残っていることから、横断的な会議の必要性が低下しているように感じる。 - 新たな補助制度や既存の補助金でも歴まち計画を策定している自治体を条件としていることもあるため、そういった方面で庁内に事業の掲載の必要性や情報共有を打ち出していく必要があるのではないか。 - 会議で新しい財源活用の話もあり、政策や財政部門も含めて意見交換できたのがよかった。 - 歴史的風致維持向上計画掲載事業を円滑かつ効果的に推進していくうえで、事業担当部門だけでなく政策・財政担当部門との連携により有益な場として機能することを期待する。 - 説明資料がわかりやすく、意見交換も活発に行われていたため、事業や知識の理解が深められた。 - 国の補助金等に関する情報や、他部門が計画に基づきどのような事業を行っているか把握することができた。 - 事業課とそれ以外の課において、歴史的風致維持向上計画の内容の習熟度に差があると感じたため、事業現場の現地確認ができるとよいと思う。			

市町村名	川越市	評価対象年度	R3～R7年
① 住民意見 ◆令和6年10月に実施した市民意識調査結果から 住民基本台帳から無作為抽出で3,000人を対象とした市民意識調査における回答が下記のとおりとなっている。 ・「あなたは、この10年間で川越市の歴史的風致（歴史的な建造物や歴史・伝統を反映した人々の活動等）が向上したと思いますか」との質問に、33%の市民が『向上した（「向上した」と「ある程度向上した」の合計）』と回答している。 ・「あなたは、川越市をどのようなまちにしたら良いと思いますか」との質問に、21%の市民が『歴史的遺産を活かした観光のまち』と回答している。 ・「あなたは、どのような文化・スポーツイベントに興味がありますか」との質問に、35%の市民が『地域の伝統行事や祭り』と回答している。 ・「市政全般について、よくなってきた施策を選んでください」との質問に、17%の市民が『歴史的環境の保全』と回答している。 ◆令和7年11月1日に実施した川越都市景観シンポジウム参加市民へのアンケート結果 都市景観シンポジウムに参加した30人を対象としたアンケート調査を実施し、「あなたは、直近5年間で川越市の歴史を活かしたまちづくりが進んでいると感じますか」と質問したところ、73%の市民が『そのように感じる』と回答している。			
② 協議会におけるコメント ・今後の歴史的風致維持向上計画では、敷地の奥にある非接道建物等への支援に対する事業を盛り込むことを検討した方が良いと思う。これは、防災対策にも繋がる取り組みである。 ・国際観光旅客税を活用し、観光行政やDMOとの連携を推進することが重要だと思う。 ・最近のかわごえ都市景観表彰では、川越らしい景観を作ろうと工夫しているものが評価されており、レベルが上がっていると思う。これは、歴史的風致維持向上計画掲載事業の波及効果であると感じている。今後も良い事例は積極的に魅力を評価し、支援していくべきだと思う。また、もっと外部に効果的に発信していくべきだと思う。 ・景観重要建造物を活用した良い事例が増えていると感じる。今後も、歴史的建造物の利活用を積極的に行って欲しい。 ・市が所有している歴史的な建物を積極的に活用した方が良いと思う。例えば、昔の絵図と現代図を並べて、様々な説明版を設置する等、周辺エリア一体をウォークアブルにする等の取り組みをしていく必要があると感じている。 ・すでに美装化を実施している道路について、メンテナンスが必要な箇所があると感じている。今後、メンテナンスについて言及した事業を掲載する必要があると思う。 ・文化財に指定されている建築物等の防犯対策を強化するべきだと感じる。防犯フェンス、防犯カメラ等の設置を検討する必要がある。 ・地域の防災訓練への支援や防災パンフレットの作成及び配布の取り組みはとても良いことだと思う。避難経路の確認や、防火水槽の増設等、多くの視点から支援を推進して欲しい。 ・全国的に職人が不足しているので、他都市とも連携し、今後も様々な伝統技術を持つ職人への支援を行って欲しい。			

市町村名	川越市	評価対象年度	R3～R7年
① 全体の課題 1 本計画の基本方針に基づき、掲載事業の中で動きがないものは引き続き検討を進めていくことが必要である。 2 重点区域内の周辺環境の整備について、回遊性の向上に資する取組をはじめとして様々な取組を行っているが、大きな効果が表れていない。 3 本計画による歴史まちづくり効果と評価について、様々な視点からの効果検証及び評価方法の検討が必要である。 4 本計画による歴史まちづくりの効果、成果、魅力等について、多くの人に認知されていないように感じる。したがって、効果、成果、魅力等を外部に積極的に発信することが必要である。 5 重点区域内にある活用されていない歴史的建造物について、活用方法等の検討を進める必要がある。 6 歴史的建造物の防災対策を強化していく必要がある。歴史的建造物は、防災設備や補強が施されていない場合が多く、災害時の被害が拡大しやすいため、防災対策の強化を進める必要がある。			
② 今後の対応 1 本計画の基本方針に基づき、進捗のない事業については、実施可能性や優先度を再評価しする必要がある。毎年実施している庁内担当者会議で、関係部門と連携を進める。 2 周辺環境整備の効果を高めるため、まずは、歩行者動線、案内表示等の現状を把握する必要がある。現状を把握したうえで、今後当計画の事業としてどのように対応していくか検討を進める。 3 歴史まちづくりの効果を多角的に評価するため、定性的な評価指標の設定等について検討を進める。 4 本計画の成果や魅力を広く認知してもらうため、広報活動を強化していく。まずは、川越市の歴史まちづくりをわかりやすくまとめて発信するパンフレット等の作成について検討を進める。また、デジタル技術を活用した発信方法の導入について検討を進める。 5 引き続き、重点区域内の未活用建造物について、民間活力の導入や用途変更の可能性を探り、具体的な活用計画について検討を進める。また、今までの活用実績を踏まえ、歴史的建造物の再生・利活用について、本市の特徴を踏まえた仕組みの構築について検討を進める。 6 歴史的建造物の特徴を把握し、必要な防災対策について検討を進める。防火設備等のハード面の防災対策の検討に加え、避難経路の確認や防災訓練等のソフト面についても検討を進めることで、総合的に歴史的建造物の防災対策を向上させることを目標に検討を進める。			